

発刊の辞

創価学会は、梵語、西夏語などの法華經写本の研究を東洋哲学研究所に委嘱し、我が国はもとより、世界各国の学術機関・専門家の方々の協力を得て、その研究の貴重な成果を1997年以来「法華經写本シリーズ」として世に送り出してきた。

これまで刊行してきたものは以下のとおりである。

1. 『旅順博物館所蔵梵文法華經断簡——写真版及びローマ字版』
- 2-1. 『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華經写本(No. 4-21)——写真版』
- 2-2. 『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華經写本(No. 4-21)——ローマ字版 1』
3. 『カーダリク(現在の中国新疆ウイグル自治区)出土梵文法華經写本断簡』
4. 『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華經写本(Add. 1682および Add. 1683)——写真版』

この度の「法華經写本シリーズ5」『東京大学総合図書館所蔵梵文法華經写本(No. 414)——ローマ字版』も、その成果の一つであり、このシリーズ6冊目の刊行となる。

編者の東洋哲学研究所委嘱研究員小槻晴明氏が、この写本をローマ字化し、発刊することになった経緯やこの写本の特徴等の詳細については、小槻氏の「謝辞」、「序」、「梵文法華經写本研究略史覚書」に述べられているとおりである。

この法華經の紙写本(本書での略称T8)は河口慧海が1903年、ネパールより日本へ将来した貴重な写本であり、1908-12年に刊行された「ケルン・南條本」の底本の一つとなったものである。

また小槻氏によれば、T8の書写年代は17-18世紀と推定されるが、その内容は13-14世紀頃の書写と推定されるネパール国立公文書館所蔵の貝葉写本(No. 5-144)と極めて類似している、とのことである。この意味でも、この度の出版は学術的により価値の高いものであると確信する。

小槻氏は大阪外国語大学インド・パキスタン語学科を卒業後、前後2回にわたって5年間インドに留学し、ヒンディー語とサンスクリット語を学んだ。1991年には、SGI(創価学会インタナショナル)インド青年文化訪問団の一員として渡印し、インド文化関係評議会

(ICCR)とSGI、東洋哲学研究所との日印合同シンポジウムに参加した。その際、インド文化国際アカデミー理事長ロケッシュ・チャンドラ博士と出会ったことが、本格的に写本研究に取り組むきっかけとなったという。

氏は在野の士として、私塾の経営をしつつ、写本研究に打ち込んだ。その後、縁あって戸田宏文氏(当時徳島大学教授、現名誉教授)の指導を得て、T8のローマ字化に取りかかった。6年有余の時を経て、前人未踏のT8のローマ字化は成し遂げられた。小槻氏の尽力に衷心より御礼を申し上げ、その業績を称えたい。

「法華経写本シリーズ」発刊の意図は、原典研究に不可欠で学術的価値の高い資料を精度の高い鮮明な「写真版」と、周到に練り上げられた「ローマ字版」の形で、全世界の研究者、専門家、および研究機関に公表し、法華経研究・仏教研究のいっそうの発展に貢献するところにある。

幸い、これまでのシリーズ5冊についても、国内・国外の研究者および研究機関から高い評価と称賛をいただいている。心より感謝申し上げたい。将来ともに、この「法華経写本シリーズ」が、関係分野の研究に多大な貢献を果たし、研究者、専門家各位に大いなる便宜を提供することを念願する次第である。

最後に、小槻氏に懇切丁寧な指導をしていただいた、梵文法華経写本研究の世界的権威である戸田宏文氏に心より感謝申し上げる次第である。また、貴重な写本の出版を快諾していただいた東京大学総合図書館の関係者の皆様にも厚く御礼を申し上げたい。

なお、今後、「ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文法華経——写真版」、「ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本(No. 4-21)——ローマ字版2」などの出版を予定している。

2003年3月16日
創価学会会長
秋谷栄之助